

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン

論達を実践し、をやの理を戴こう

本年の実践項目

つとめに専心
百万軒にをいがけ
全教会で陽気ぐらし講座開催

こどもというものは、大変素直なものです。言うことは鵜呑みにしております。

理を立てて
我が身が立つ

縦の伝道講習会
宮森与一郎先生

子供は素直なもの

ある日、教祖殿から神殿の方へ歩いてみると、向こうから五歳ぐらいの男の子が元気良く大声を出して走ってきました。その後ろから、小学校二年生ぐらいの女の子が「ここは、走ったらダメよ」と注意しましたが、言うことを聞かないので、ついに「走ったらアカンて言ってるでしょ！いつまでも走ってたら、夜になったら教祖が化けて出てきはんぞ！」と叱りました。走っていた男の子はピタッと止まり、後ろを振り向いて「お姉ちゃん、ホンマか？」お姉ちゃんは「そうや。去年のこどもおぢばがえりて引率の先生が言うてた。」と答えました。

何を見て育ったか

先月二十五日の産経新聞に、昨年、アメリカの高校で起こった銃の乱射事件について載っていました。

高校生たちは次々と撃たれていくが、怖くて身体が硬直して逃げられない。そのとき、震えている学生を安全なところへ誘導したのは、学校の用務員だった。用務員は学生と同年輩で、知能障害のある確かな教育も受けていないような人だった。

しっかりとした高校教育を受けて分別のある人が何もできなかったのに、その用務員はそんなときにもしっかりと動けた。

知能障害のあるその用務員は、いつも相談をしていたカウンセラーと心の繋がりをもち、そのカウンセラーから人間的な温かさを享けていたという話でした。

私が見たものは

何を教えたかが人間を育てるのではなく、何を見せたかが問題である。人と人との繋がりの中で何を見て育ったかが一番大切なことだろうと結論付けていました。

私は、山の中の小さな教会で育ちました。上級も部内もない教会ですが、私の両親が、信者さんのいないこの教会に行つて布教を始めました。小学校のころの月次祭には後ろに何人か参拝者がいる、それが月次祭だと思つておりました。月一回の給食費をなかなか貰えなかったような思いもあります。

こういう教会で育ちましたが、教会というものはこういうものだと思つておりました。今から振り返れば、子どものころに、自分も教会長になろうとずつと思つていたような気がします。父はいつもにをいがけに出ていて、母が教会で留守番をしているというような教会でした。ある時、珍しくも一人の老婆が訪ねてきまし

た。父から話を聞いて参拝する気になったそう
で、その日から日参されるようになりました。
それから数日後、そのお婆さんが言われるの
に「私の一人息子が家出をして行方不明になっ
ている。その居場所だけでも判ればと思つて日
参している」ということでした。

一ヶ月ほどして、何年も家出をしていた息子
から、突然手紙が来ました。「親不孝してきた
が、仕事が成功してきたので、いずれ毎月仕送
りをしたい」と書いてありました。

そのお婆さんは感激され「こんな山の中のえ
らい所で半信半疑だったが、教会に日参しだし
て一ヶ月で息子から手紙が来た。嬉しい。少し
だが、神様にお供えしたい。息子が送つてくれ
たお金を教会の子供さんに使つてください」と、
毎月、息子さんが送つてくるお金から少しずつ
くださるようになったそうで、その額が私と姉
の学校の給食費と同じ額だったそうです。この
ときから、毎月の給食費が入るようになりました。
た。

教会というところが教祖のひながたを辿ろう
とするところなら、物や金の苦労は当たり前の
ことだが、物や金がないからしんどいという思
いを、もし、私に伝えていたら、「今月もしん
どいなあ。厭やなあ。」という言葉聞いたたり、
その姿を見ていれば、おそらく「教会というの
はしんどいことや。厭なことや」と思いながら
育つただろうと実感します。

しかし、どんな姿であろうと、子供は、物や
金で苦労したからしんどいなあとは思わないか
も知れません。少なくとも、私は思いませんで
した。

夫婦の心を一つに

もつと大切なものは何だったかと、今、振り
返つてみると、両親が一つのことを心を注いで
くれていた。それは、このような教会でも、こ
こで、いつかは、教祖にご満足いただけるよう
な、少しは安心していただけるような教会にな
りたいと思う努力を重ねようと、おそらくは、
夫婦で話をし、心を添えていたということだと
思います。

このよのぢいとてんとをかたどりて

ふうふをこしらへきたるでな (第二節)

ふたりのこゝろをさめいよ

なにかのこゝろをもあらはれる (四二)

ふうふそろうてひのきしん (十一二)

と仰せられます。

基本的にあるのは、やはり、夫婦の心が一つ
である、揃っている。これで初めて子供が育つ
のだと思います。

私も、後に結婚し、今、三人の子供をお与え
いただいておりますが、そうして考えてみ
ると、夫婦として心を添えた道を辿っているの
か、日々反省しなければと思えます。

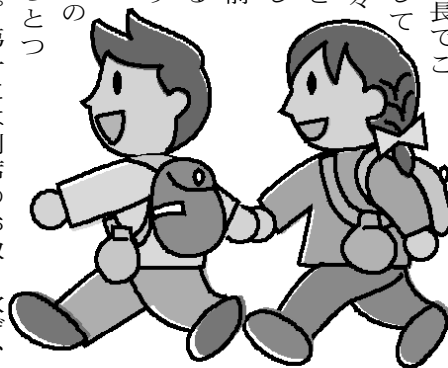
皆様方、いかがでしょうか。
夫婦の心が揃って、そして、親神様に向かっ
ているのか、親神様の御守護一つに縋っている
姿を子供に見せているのかどうか。

子供に映る親の心

私も、一教会長でこ
本部の御用もして
おりながら、時々
不足がでるとき
もあります。し
かし、子供の前
で不足を見せる
とそのまま映り
ます。

私は、おぢばの
御用をいろいろとつ
とめております。第一には別席のお取り次ぎ、
そして少年会の御用、一れつ会の御用、少年会
やしき隊の御用、修理巡教の御用、その上、分
教会長です。

私の末の子は、上の子が小学校に通う姿を見
て、幼稚園のころから「私も早く学校に行きた
い」と大変期待していましたが、今年、小学校
に入学して、しばらくは半日で帰宅します。上
級生が給食があるので、四時間目になったら給
食の匂いがプーンとしてきます。「私も早く五



時間目を作つてほしい。早く給食が食べたい。」
と言うのです。それくらい楽しみに毎日通学し
ておりましたが、五月に入ったある朝、泣いて
学校に行かないことがありました。

家内に聞いても学校に聞いても理由が分から
ない。私はいろいろと思案をし、ふと気が付き
ました。

私は、まともにはできませんが、御用だけは
いっぱい与りました。与わつたら与わつただ
けしんどいなあと思いました。今年に入つてか
らずつと、喜べない不足の心がありました。

毎日、御用でおぢばに帰らせていただきませ
が、忙しいから教祖殿は神殿から拜んでおこ
うとか、朝夕のおつとめにお出まし下さる真柱様
にご挨拶してもお返事が返つてくるわけでなし、
遠くからでも挨拶させていたかどうかという気持
ちも薄れていました。御用が多いから仕様な
いと思いがちでした。
しまったと思いました。

尽くす理、運ぶ理

おさしづの中に
尽くす理、運ぶ理より立つ理は無い
と仰せられます。

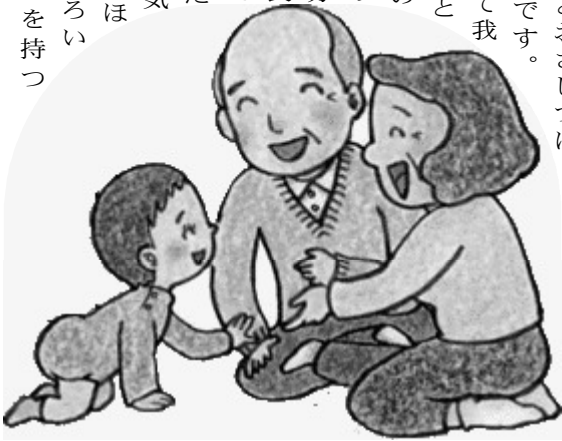
「尽くす理・運ぶ理」とは親に対して心を尽
くしていく、我が身を尽くさせてもらう、これ
以外に「立つ理は無い」。「立つ理」というのは、

自分が「ああ、良かったなあ」と安心して通れ
る道、また、孫子の末まで安心して通れる道が
「立つ理」です。

家内が元気である、子供が元気で学校に行つ
ている、ニコニコとしている、無事無難に送つ
ているので、自分が安心していろいろな御用が
できるのです。

子供が泣きながら無理矢理学校へ連れて行か
れる姿、学校でいじめなどいろいろなことが起
こる姿、こんな姿は、見たくないという親の心、
安心したいという心は、「立つ」ということ
です。自分が立つ、我が身が立つということは安
心できるということだと思えます。

そのためには「尽くす理、運ぶ理より立つ理
は無い」とおさしづに
あるわけです。
親として我
が子のこと
を思うの
は当たり
前、自分
の子に良
くなつて
もらいた
い、元気
でおつてほ
しい、いろ
んな望みを持つ



のは当たり前前の話ですが、それを自分の子供に
「尽くす、運ぶ」では立たない。どこに「尽く
す、運ぶ」のか。親に対して「尽くす、運ぶ」
以外に「立つ理は無い」とお教えくださったとい
る、その信仰を私はしているはずなんだと、ふ
と思いました。

別席の中にもそうお聞かせいただき、私もそ
うお伝えしているはずなのに、それを忘れて不
足がましい心をもつて、それで「尽くす、運ぶ」
といえるのか。精神込めて親に喜んでもらおう
と思えたかどうか。

できるかできないかは別問題です。私の能力
なんか知れたものですが、親を立てて通る、親
に尽くさせていたきたい。私の教会で申すと、
本部直轄の分教会ですから、たとえ分教会でも
しつかりおぢばに尽くすんだ、運ぶんだ、一人
の教会長として自分のところはどうかでも徹
底的に親に何とかという気持ちでいくんだ。

私は、今のところ、自教会にいることはほと
んどありません。

親に尽くさなければならぬ、身も心も金も
尽くしていかなければと思えます。それでこそ、
初めて「立つ理」ができてくる、そう心を変え
た途端に末っ子が毎朝登校するようになりまし
た。

心を変えただけです。神様というのは鮮やか
だなと思えました。我が子可愛いとばかり思つ
ていたら変わらなかつたかも知れません。親に

尽くそう、我が家はどうなっても親に運ぼうと思つてこそ、初めて「立つ理」というのはあるなあと実感しました。

自分の子供を思う親の気持ちがあればこそ、親を立てて通らなければと思います。

たった一人の子

私の教会は小さい教会ですが、若いころから毎年子どもおぢばがえりには最低十人くらいの子どもを連れておぢばがえりしておりました。

ある年、申し込んできたのがたった一人だったので、今年は止めておこうかと母に相談したところ、「なんで、子どもおぢばがえりしてんねん?」と聞かれました。

私は、「子どもを連れていって、

天理教の教えを身に付けさせ、

将来、うちの教会の素晴らしいよふ

ぼくにならそうと思

うて、一生懸命する

わけやろ」と理屈で

答えました。

母は、「ホンマにそう思うん

やったら今年止めとけ。でも、子どもお

ぢばがえりに子どもが帰ってくるその姿を待つておられる教祖に、その子を連れて引き合わせにいくつもりやったら一人でも行け。一人でも



行こうと言うてくれたその子を教祖が待ち望んで

ではと思うたら、お前は、何としてでも、その

子連れていかんならんのとちがうか」と言

うて、それから一時間くらい話が続きました。

当時、大学生だった私は、たった一人でも構

わないと思ひ、小学校一年生のその子を連れて

二日間、おぢばに帰りました。

世話する方もたった一人、される方もたった

一人の子どもおぢばがえりでしたので、一日中

その子に付きつ切りでした。しんどくなつたら

負んぶし、お茶を欲しがればお茶をもらつてや

り、風呂に入つたら洗つてやり、全部世話して

やりました。

その年のおぢばがえりが終わり、翌年から、

また、段々と増えましたが、皆、教会に足を運

んでくれたかというところでもない、

今までもずつと教会に来てく

れるのはその子です。

やっぱり、その年にし

ておいてよかつたな

と思ひます。

母は「今年切れたら、

来年もできひん。絶対で

きひんから、一人でもええから

行け。連れて帰る子がなかつたら、お前一

人でも行け」と言つてくれました。それで、続

けられました。今は、よかつたなあと思ひます。

どんな細い道でも

どんな細い小さな道でも、教祖が付けてくださった道だつたら、それを辿るのが私たちお道の者ではないでしょうか。

大きな道なら誰でも通る。少年会も同じこと

だと思ひます。

私の教会は今でも細い道です。どんな道になるやら分らないというような教会ですが、この教会長として、親に尽くしていかなければ運んでいかなければということだけは忘れたくない。これを忘れたら天理教の精神を忘れたようなものではないでしょうか。

元を振り廻って

我が家の初代は、教祖御在世当時、明治十年ころの入信です。結婚してできた三人の子供が次々と出直し、一人残つたのが私の祖父でした。その祖父には六人の子供がいましたが、可愛いばかりの長男は二十三歳で出直し、残つた次男である私の父が家を継ぎました。私は小さいころから喘息で、学校は休み勝ち、遠足も運動会もほとんどでたことがないという、しかし、男の子一人で、何とか出直さずに済んできた。そして、私は、今のところは子供は三人だけですが、皆、元氣にお育ていただいている。何の心配もいらぬ。

初代は、信仰しながら、三人の子を出直させ、二代は、可愛いばかりの長男を二十三歳で失い、父は、この子が道を継いでくれたらと必死に育てた長男が喘息、そういう姿を見ながらも通ってくれたお陰で、私は、子供は皆元気であります。

「こんなありがたいことはないなあ」と百年経って初めて思います。「初代はよくぞ信仰してくれたなあ。それをよくぞ伝えてくれたなあ」と子供を見ながら思うのです。

この道は細かいかも知れない、今は子供が次々に出直すかも知れないと、初代はそんな道も通ったんで今は結構になってきた。初代・二代・三代がそんな道でも必死になって辿ってくれたお陰で「ありがたい」と思える、「これが結構な道やなあ」と思えるのです。「おぢばに尽くして行こう、おぢばに運んでいこうと代々思ってくれたお陰やなあ」と思うんです。

だからこそ、初めて、子供だつて元気に育つ。これを忘れたら、その元を忘れたら、「子供は非行に走っているじゃないか、不登校じゃないか」、こんな目に合ってるじゃないか、その枝先目先のことだけを考えて、「どうしたらよいのか、世の中が悪い、社会が悪い、あれが悪いから、これが悪いから」という心で、これで我が子がたすかる元があるのか、私は、きつとないような気がします。

むしろ、「尽くす理、運ぶ理より立つ理は無

い」

「笠岡」の道は

この「笠岡」の道を見てみても、初代の会長様は女の方です。女性がこの笠岡の地で布教された。上原さんと先生は晩年に「笠岡の道は歩いて歩いて付けた道や」と仰せられました。それが、こんな素晴らしい教会になりました。

この「笠岡」の初代が付けてくださった道、そして、代々守つてくださった道、この「笠岡」の道に必死になって尽くしていく、運んでいく、この「笠岡」を通しておぢばに向かつていくのです。これこそが、我が子が「立つ理」ができる元ではないでしょうか。

明治二十九年、内務省訓令ができました。内務省訓令というのは、内務省から各県知事に対しての天理教を弾圧せよという命令です。

国から天理教を潰せという命令が出たときに、「笠岡」は何をしていたのですか。「笠岡」は神殿ふしんをしておりました。神殿ふしんは、「尽くす・運ぶ」、これ一筋です。天理教を弾圧されているときに、「親神様のやかたを建てたい」それ一心で、親に運ぼう親に尽くそうとやってやり上げたのが、この「笠岡」の最初ふしんではなかったかと思えます。

そんな道を辿つたればこそ、笠岡大教会というのはこんな素晴らしい大教会であり、そして、

代々続いてきたのではないのでしょうか。

もし、これを忘れていたらこんな道はなかった。弾圧に屈していたら無かつた道です。

しかし、その道を辿る、これこそが未代続く道だ——縦の伝道とは未代続く道ではないでしょうか——先ず、これを尽くす運ぶことが、今日の姿になった元だと思えます。

天理教の少年会

今、「少年会」ではいろんなことを言ったりしたりしていますが、これは「天理教少年会」です。そう名乗っている限り天理教の教えが元



です。余計な技術、いろいろな相談も大切かも知れませんが、私たちの辿る姿を見ているのが子供です。

教えて「ああせこうせ」と言うことよりも、親のしている姿を見て育つ、これが子供ではないかと、それを見せていくことが教育ではないかと、最初に申したように新聞に書いてあります。

私たちは、自教会・家庭でこの道の信仰の不足が出ていないか、むしろ不足の反対の方、喜びを上級に尽くしているのか、「ああ、今日も上級のお陰やなあ」、「上級を通しておぢばのお陰やなあ」、「大教会長様のお陰やなあ」、「真柱様のお陰やなあ」という言葉が出ているのかどうか。

これを見せない限り、いくら「天理教は素晴らしい」「教祖の教えはこうだ」「天理教少年会はこんなことをしているよ」とそのようなことをいっばい教えても、不足が出たら、子供はその不足の方を見習うのではないのでしょうか。

立教163年 教会長講習会

アンケート(まとめ)

◎印は特に多かった感想、丸数字は集計

親に尽くして喜ぶ姿を、これを見せていく。これこそが縦の伝道ではないでしょうか。

少年会は、キャンプを教えたり、鼓笛をしたり、いろいろな歌やゲームをします。これは、喜びを伝える方法でしかありません。もし、楽しいゲームをして、それでお道の信仰が伝わるのならこんな楽しいことはない。これは方法なんです。

私たちの示す姿を子供に伝えていきたい、これが縦の伝道だということを、もう一度、私たちは思い起こしていく必要はないでしょうか。

理を立てて通る

私たち家族は、山の中の教会で暮らしております。台風が来たら吹っ飛びそうな教会です。

台風が来たら今日のお話を思い出して下さい。

親に尽くしてほしい、親に運んでほしい、大教会の理を立てて通る、理を立てるということが一番肝腎なことだと思っていたきたい。

そうしたら自分が伸びる元ではないでしょうか。「根に肥やしをやれ、根に水をやれ」と、いつも、みんな説いているはずです。どうかそのことを思い出して、もう一度、少年会の活動にも力を入れていただきたいと念願しております。

一人でもええじゃ

さて、最後になりましたが、今年のこどもおぢばがえりは、今までやっておりました白川会場がなくなります。おぢば周辺で、教祖の膝許で、全部の会場が開催されることになりました。

どうか、この「笠岡」に集う教会、全ての隊が、どうか「一人でもええじゃないか」「うちは、たった一人でもこの子を連れて行こう」と思うてお連れ帰りいただきたい、そのことを最後にお願いいたしまして終えさせていただきます。

〈以上要約。文責 編集部〉

講話を聞かれて、あなたは、どのように感じられましたか。

◎同じ教会長でも天と地程の違いがある事が分った

◎親・親教会(上級)へのつとめ・伏せ込みの大切さ⑤

◎三つの角目の話し⑩

・親に百分もたれ切る ・いんねんの自覚 ・つくしの徹底

◎用木からは用木が育つが、信者からは用木は育たない

◎信者ばかり作っていた事が分った。少人数でも真の用木の御守護を頂けるようつとめる

◎信者は用木にはなれないという話はこたえた。②

◎用木を育てる事の大切さを痛感。おたすけの出来る用木を育てたい

◎自らの因縁・家の因縁を今一度思索し、新たな気持で通りたい

◎教会長として因縁の自覚の無さを痛感する

◎神様にもたれ切る事の大切さを新たにした。又、教会長としての信仰姿勢を見つめ直したい

教会長としてはづかしくなった。今からでも遅くないので教会長として、又用木としてやり直したい。教会長らしく(用木の手本として)なるよう努力する。(他二・三)

◎今のお道の低迷は教会長が原因と聞かせて頂きショックを受ける。が、又、そうだと思った。自分が変らなければ全てだと思ふ

◎おつくしの大切さ、親への素直さを心底から教へられた⑩

親に添う事が助かる事と自覚出来た。つくしが出来ないとおたすけが上らない事。親への思が軽かったと反省。つくしをしないと用木になれない事。上級の親に一切逆らわない心定めでつとめて来ているが、もう一歩進んで親に涙を流して頂けるような所までつとめねばと思う

◎おつくしへの自覚がついた

◎成つても成らないでも思い切つて実動する所に親神様のお働きを頂ける事

理屈抜きに実動させて頂く。道の通り方にも色々ある事分った

講師の母親が通られた様に御守護無い中も心を倒さず通らせて頂く

◎今の通り方に区切りをつけて、新たにスタートさせて頂かねばと思ふ②

◎初代の道があり今日の道がある事、良く分らせて頂いた

初代の道を無にせぬよう通らせて頂く

◎講師の通られた道を自らの歩みに生かし度い

◎単独から出発して素晴らしい教会を築かれた事は納得いく。又、自分もその

一端でも参考にさせて頂いて通らせて頂くが、しかし、今日結構になったからと云つて、おたすけに行くのに高級車と運転手付で、しかも、人もうらやむ御殿のような豪華な邸宅と庭が待っている生活は(……それが一つの目標でもありましようが)私には理解が出来ない

◎先生のお話し(……信仰)について、あまりにも物への(形)こだわりがあり過ぎるように思う

「おちばへ真実を尽くし運び、理の伏せ込みをする」ということについて、あなたはどのように考え、またどのように行なっておられますか。

◎一人でも多くの方を共に連れておちばがえり⑥

◎上級への日参と上級へのつくしが即ちおちばへのつとめ②④

◎毎月おちばの月次祭に参拝すること④④

◎きりなしを通してのちばへのつとめ⑩

◎毎月の上級へのお供全てが地場への真実の伏せ込み、御恩報じと考へている

③

◎年頭の心定め完遂こそが、ちばへのつとめと考へる⑥

◎つなぎ袋の一層の徹底を計る

◎信者さんには、できるだけして頂ければいゝ位に思っていた事が間違っていた事分った

◎ちばへのつくしの信念に欠けていた

◎おちばへの伏せ込みが、全てお金お金と考える向きがある、そうではないと思ふ

上級の会長は、つくしが少い教会に対しては小馬鹿な態度をとられる。金額は少くても、中味は多い所以の真実がつまっている。

形にとらわれず、喜びをもってつとめさせて頂く

◎自らの生活を確保した上で、残りを運んでいた事を反省する

◎もつと切つ羽詰まった状況に自らをもつて行き度い

- おつくしを減らす事あつても増やすことがない現状を打破したい
- おつくしの大切な事は分つているが、信者に話す事伝える事が分らないし、難しい③

あなたは、「自身の運命を切り開くということ」についてどのようにお考えでしょうか。

- 因縁の自覚に基づく御恩報仕の道を歩む⑫ 陰徳を積む努力④
 - 何事も喜びに替えて通れるよう努力(たんのうの心)⑪
 - 親神様にもたれ切つて通る日々⑨
 - 理の親の心に添うつとめ⑨
 - 人の喜びが我が喜びとなるようなつとめ、結果として運命が開かれる④
 - 運び・つくしの徹底④
 - 初心を忘れず、信仰の基本(ひながた)に自らを照し合わせて通る事④
 - 親神様・教祖にお受け取り頂ける心、歩み方と反省の日々④
 - おたすけ活動(にほいがけ・おたすけ)⑤
 - 成つて来る理・現れた姿を喜んで受けて通る心②
 - 与わつたつとめを勇んで、明るく最後までやり通す努力(途中で切らない)
- ②
- 初代の信仰を生かしてつとめる
 - 置かれている立場をわきまえる、つとめの専心②

「教会長後継者・道の後継者の問題」また「縦の伝道」について、あなたの教会の問題として、どのように考え、またどのように行なつておられますか。

- 日々に勤める姿を通して伝える⑨
- 日々に喜びの信仰生活こそが、素直に道を通りついて来てくれる元である⑤
- 信者の子弟が育つていない事が大問題です。どうすべきか悩んでいる⑤

- 聞いてくれなくても聞いてくれても道の話しは聞かせる事が大切④ 又、それはあと／＼節に逢つた時、あの時親が云つた事思い出して来れる為に①
- 縦・横の行事に積極的に参加させる事、そこに知らず／＼お育て頂く理ある②

② 縦の育ては少年会活動が重要なカギである事が分つた②

○教会長自身の心と行い、これに全ての答えがある

教会長自身が親の理(理の親・上級・地場)に素直に添えなければ、順序の理として理の子や子孫に道の結構さを伝える事は、決して出来ないと考えている(我が子は全員用木として当然の事としてつとめてくれている)

○後継者としての自覚を促して育てなかつた事、悔んでいる

○話を聞いて自分の通り方では、後々が続かん事が分つた

○教会長自身の姿を見せる為、同行させ運転させて講社祭の手伝い、又講社を二件担当させている。毎朝の神殿掃除に起こし、共につとめている

○後継者問題は、経済的な問題を解決しないと難しい

○後継者で悩んでいる所は陰気ぐらし(経済的な問題が多い)してる所が多い

○子供の前の道の不足は厳に慎んでいる

○大教会サイドでも、縦の育てには、しっかり後押しして欲しい

よふぼくが出直す反面、新しいよふぼくの誕生が少い今、あなたの教会の役員・よふぼくを育てる上で、どのように考え、またどのようにつとめておられますか。

- 用木に一回でも多く、一人でも多く教会に運んで頂ける様、自ら上級に素直に積極的に運ばせて頂く④
- おぢばへの参拝を促す②
- 布教を縦と横両面・同じ心で取り組む事大切④
- 少年会活動を積極的に(教会へ出入りした子は育つ)⑧
- 役員・用木に自覚を促し、自主的に成人するよう導く③

○心の通い合い大切。教会へ足を運んで頂ける様丹精③

○月に一度は信者宅に足を運ぶ事④

○講社祭は家族全員でつとめるようにする事②

○若い用木の方に、講社祭に同行し頂き、一言の話しを取り次いでもらおうような育て②

○月次祭の充実とおつとめをきちんとつとめさせて頂く事③

○自らが先頭に布教に立つ③

○おつくしを第一に

○時句の声を伝えさせて頂き、一つでも実行して下さる様、丹精につとめる②

○信者の育ては、我が子を育てると同じつもりで②

○教典の勉強大切②

○教理の理解を深めると共に、いんねんの自覚を促す事②

○月々の感謝袋は親が勝手に入れない様に。子供にその意味をよく話し、納得させて自らの手に入れさせる。名前も本人に記さす②

○用木・信者の機嫌取り、顔色うかがいを止める②

○先の事を案じず、今のつとめ(大教会より旬の声)を全力投球②

○自らが(用木の方々に)教会になくはならない人材である事を事ある度に話す②

○にほいがけ②

○おさづけの取次②

○会長としてのつとめの全う②

○節をいかに生かすか②

今、教会長として困っていることや悩んでいることがあれば、具体的に書き下さう。

○おつとめ奉仕者の減少⑦ 増加をなんとか⑩

○おつくしの低下⑧

○教会長として雑用が多過ぎておたすけに、又丹精に励めない、運べない⑥

○後継者が育たない(心が離れている)④

○実動用木が少い③

○書き切れない程悩みがある⑧

○用木が出来ない(別席者、修養科生)⑤

○アンケート全てにわたって悩んでいる

○経済的に困っておる③ 時にはどうしようかと云う時さえある(特に子供の学校への納金問題では、常にギリギリの過ごし方をしている)

○親孝行も大切であるが、親が子を育てるのも親のつとめではないのか

○少年会活動をおろそかにして来たツケが今廻って来ている

○教会長として、用木一人くへ具体的な導きが出来ない

どうしたら教会へ運んでもらえるか、話しても意が通じない

会長の思いが伝わらない、分ってもらえない

人間思案が先に立って、思いが素直に云えない、伝えられない事に悩む

む

○先々の信者が切れつゝある。この方達を繋ぐにはどうすればよいか悩む

○後継者が職業に就いていて生計を立てるので、道一条で通る事に悩んでいる

道一条にふん切りがなか／＼つかない

○別席者(運び中)用木の丹精に悩む

○親から子への信仰が伝わらない

○若い用木が仕事が休めず(月次祭日)つとめられない。老人だけの月次祭となり段々活気が無くなる

○教会に留守番がいなく、教会を空けられない

○安心して任せる人がいない

○この道の事が解らない。徳の無い者が仰せのまゝに任を受けた事が間違っていた

○法人の事務処理が難しく分らなく困っている

- 用木の成人…：教会の立場でつとめてくれる人が育たない
- 教えを人に話す事が出来ない
- 上級との問題に悩む
- 用木の高齢化

- 上級・大教会の不足を廻りの人にふい聴し、廻りの人の心にブレーキをかける人が居て困っている
- 前会長が口をはさみ困る
- 大教会当番の日記帳(特に自由にな

- んでも書き入れるものを)置いて欲しい
- 大教会も段々役員先生が減って、大教会で悩み事を聞いて下さったり、親心をもってお仕込みして下さいる先

- 後継者が無い
- おさづけがきかない

「陽気ぐらし講座」 実施報告

福節分教会

藤井治喜

「全教会で陽気ぐらし講座開催」という本年の実践項目を初めて聞かせて頂いた時、正直に言って「そのような御無体なことを・・・」と思ってしまうました。自他共に認める笠岡部内でも有数の自然環境に恵まれた地に有り、密かに信仰の灯をともし続ける福節分教会にとつて、本部より講師をお迎えして御講演いただくというようなことは、想像できなかったのです。その後、大教会の推進研修会や上級教会で実施要項を詳しく説明して頂き「この『陽気ぐらし講座』をにをいがけに活用するんだ。人数は少なくてもいい。未信者五名以上の受講が目標で

ある。」と聞かせて頂き、少しは気が楽になりました。それでも他の教会の様子を見させてもらってからにしようと思っていて構えていたところ、上級教会より「他地区での陽気ぐらし講座に来られる講師(京塚貢先生と橘香滋さん)の空き日があるので、福節で開催しては・・・」とのお話がありました。突然のことです。どうしようかと迷いましたが、お声のある時にさせて頂いた方が良からうということ。五月十日午後二時開催ということになりました。

ただでさえ過疎地なのに平日の昼間で、しかも田植え時期ということ。なかなか人は集まらないだろうな」とは思いましたが、できるだけ呼びかけさせて頂くと思ひ、町内は一軒残らずパンフレットを配らせて頂くことにしました。隣りと数百メートルも離れた山の中の一軒家もあり、一時間に二十軒ほど廻らせて頂くのがやっとでした。そんななか「お話と歌謡ショーがあるんですよ」とお誘いすると「それはまた珍しいことをされる」「おもしろそうだ」「行か

せてもらおう」という声がいよいよ外多かつたのは、うれしいことでした。信者さん方も一生懸命に呼びかけてくださり、ゲートボール仲間を十数名連れて来られた方もいました。そんなことで、当日は、総数五十名の参加者となり、未信者も三十五名という予想以上の大勢の方に参加して頂きました。そうして講座も非常にうちとけた雰囲気となり笑いの絶えない大変盛り上がったものとなりました。未信者の方々が、一応に「良かった。楽しかった。」と言ってくださり、お世話取り下さった信者さん方と大いに喜ばせて頂きました。

この陽気ぐらし講座を通して、勧誘のために初めて廻らせて頂いた家や、初めて言葉を交わした人達もたくさんいました。そういう機会を得たことをありがたく思います。また日頃のおつきあい、日々の通り方が大事であると改めて思わせて頂きました。

次回また開催させて頂く時は、もっと多くの人に参加して頂けるように、もっと自信を持ってお誘いしたいと思ひます。

Leader's Mini-Essay 心の通ひ路

仲條 伸 重 政 禎 子

教会長の理のお許しを頂いてから、もう少しで五ヶ月が過ぎようとしていますが、それまでには、色々な出来事がありました。

昨年の五月頃から、三代会長が体調を崩されるし、私も、交通事故のような目に遭いましたが、幸い怪我もなく、あわや大難になつてたかも知れない所を小難にお連れ通り頂き、本当に不思議な御守護をお見せ下さり、ありがたく思わして頂きました。それにも拘らず私は、子供を連れて教会を出ようと、出る事ばかり考えていました。と言うのは、三代会長の容体が思わしくなく、後継者問題があったからです。私の主人（後継者）は、平成三年に出直してまして、子供が五人いるのですが、まだ、手がかかるし、経済的にも大変で、教理勉強なども未熟なもので不安や葛

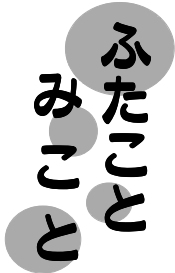
藤が頭の中を過つていました。

九月になつて三代会長が出直され四代会長を決めさせて頂く時期がいよいよ来たのです。役員さん、信者さん、一人ひとりの思いを代表役員さんが聞いて下さつていたのですが、私は、教会に住わせて頂きながら教会を出たいと言う気持ちは強くその思いは募るばかりでした。会長不在の月次祭が何ヶ月も続いておりましたが、私もなかなか決心がつかずにいました所、十一月中頃腰に身上を頂きました。腰の痛みと座骨、左足の後側の痛みしびれ、それは言うに言えない辛いものでした。かかりつけの接骨院で診て頂いた結果、「椎間板ヘルニア」と聞かされ、つらい日が何ヶ月も続いている中、色々と思案させて頂き自分なりに次のように悟らせて頂きました。「脊髄というのは、体の中心、腰はつなぎと聞かせて頂いておりますので教会の中心、要するに教会の会長にならせて頂き腰を据えなさい」と言う神様からのお手引きだろうと思わして頂き色々な事情、身上をお見せ頂く中、教会長をつと

めさせて頂こうと心定めさせて頂く事ができました。そして、心定めさせて頂いた頃から徐々にヘルニアの痛みも和らいでいき今年二月任命講習会を受講させて頂く頃には御守護頂きました。その時は、さほど思わなかつたのですが神様の思惑って不思議なものです。今までの教訓を胸に、ほんとに未熟な者ですが一つ一つ勉強しながら、親神様・教祖、又、親や信者さんに喜んで頂けるようつとめさせて頂きます。

「頂く」という言葉を私達は日常茶飯事に使っている。お道の専門用語ではないか、と思う程使っている。使い過ぎである。滑稽を通り越して愚鈍にさえ思えることがある。そこで広辞苑を繙いてみた。

「頂く」者
一、頭へのせぬ。
二、高くさげぬ。



三、崇め敬ひ。
とある。詳しくは略するが、右の本質をわきまえずに使つと次のようになる。

「只今より、〇〇部の会議を開かせて頂きませう」
思わず放送している人の顔をみる。本人は最高の敬語を使っていると思つているのだから、気のうちはマメである。世の中和でありませう、というような顔をしている。

何年前か、こんなこともあった。ある大会が終了して司会者がおもむるにのたまつた。
「皆様方には席を立つて頂き、右を向いて頂きます。先頭から歩かせて頂き、門から出させて頂きます。左の方へ歩かせて頂き、広場へ集合させて頂きます。云々…」とまだ頂くが続く。可笑しいと思いませんか。思わない人は……
世界たすけ云々と大きな声をするお道のもの、こんなところから気をつけなければ笑いものになる。いや、現に笑われているのである。いつまでもコップの中で泳いでいる分ならいいのですが……
世ノ中和アリマス。ハイッ。

六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に 会長 上原理一 慎しんで申し上げます

親神様の子供かわいひ親心によります 火水風の御守護のまに、日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております事は 誠に有難い極みでございます 又 私共は 単に春夏秋冬の季節の移り変わりを楽しむだけでなく 御教えのお陰によりまして 日々成つてくる姿に 親心と有難さを感じつつ生活させて頂けます事も 誠に勿体なく有難い事と 朝夕に御礼を申し上げさせて頂いております 加えて少しでも御恩返しをさせて頂きたいものと 月々のおつとめは もちろん 日々をいがけおたすけを通して たすけ一条の上に邁進させて頂いております

その中にも 今日の日吉日は お許し戴いた御祭り日でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同 今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達の唱和の声と共に 明るく陽気に勇んで 座りづとめてをどりをつとめて 六月の月次祭を執り行わせて頂きます 皆の勇み心の真実を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて あと十日程で 今年も上半期が終わり 下半期へと移行して行きますが 単なる経過にとどまらず 一つの節目として 捉え 上半期を素直に反省して 下半期には その反省を生かせるよう 勤めさせて頂きたいと存じます つきましては おちばに於いて 道の後継者として 直接お仕込み下さる機会を与えて頂いておりますところの子供おちば帰りや 学生生徒修養会に一人でも多くの子供達をお引き寄せ頂きたいものと 本日は縦の伝道講習会を開催させて頂きますので 何卒 親神様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます 又 心も新たに 三つの実践項目の実動に掛からせて頂きたいと存じますが 只 実動するだけでなく、そこに教祖のひながたを心に湛えつつ 喜びとたすけ心を添えて 勤めさせて頂く所存でございます

何卒 親神様には、心の荒みがちな世の中にあつて 物欲に惑わされず 只ひたすら 親を信じ 凭れて 世界一列を助けたいとの親心に 添い切る皆の 真実誠の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に 尚も自由の御守護を賜りまして 人々が 実の親を知り 一列兄弟の理に 目覚めて 互いに助け合う 陽気ぐらしの世の状に 一日も早く 教導下さいますよう 一同と共に 慎んで お願い申し上げます

雅 祭 講 習 会

期	間	9月22日	午後2時	受付～24日	午後3時	閉講
参加御祭	対講	3,000円	中級以上(平調の吹ける方)			
	師	笙	=	浅井	みちよ	先生
		箏	=	山崎	康雄	先生
		籠笛	=	連	彦樹	先生

雅祭大合奏 お供え演奏会

日	時	10月26日	正午より
会場		本館第2食堂	
曲		管絃 双調「武徳祭」「賀殿急」「胡笳酒破」	
		舞楽「柳花苑」	

第 7 1 3 期 修 養 科 募 集 要 項

* 修養科期間

立教163年9月1日～11月27日

* 教 養 掛

3ヶ月間	吉 岡	壽	(大教会役員・興明分教会長)
1ヶ月目	福 島	泰 道	(瑞北教会長)
2ヶ月目	田 中	一 矩	(上小畠分教会長)
3ヶ月目	瀬 藤	教 雄	(大恵山分教会長)

* 募集要項

- ・ 志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 8月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、29日の昼食後に解散。

* 教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

* 参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

* 携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

* 服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
別 席 願	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「 席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後におさづけの理を拝戴する者のみ。
「おはなし」	○		
大教会 御供	○		・願書に日付を入れない事。
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

少年会 笠岡団 サマーキャンプ

白イルカのアクアス水族館に行くよ

期 間 平成12年8月22日(火)
~8月24日(木) 2泊3日

場 所 島根県 石見海浜公園 キャンプ場

- 集 合 8月22日 午前8時30分 大教会集合
- 解 散 8月24日 午後4時頃 大教会にて解散
- 定 員 50名(先着順)
- 参加費 3,000円

■携行品 米3合、バーベキュー野菜1品、帽子、着替え、洗面具、水着、サンダル、懐中電灯、水筒、弁当1食、新聞紙、軍手、長袖の服とスポン、雨具、遊具(浮き輪、水中メガネなど)。

■申し込み 8月18日までに各ブロックの担当者に申し込み書を添えてお申し込みください



第58回英語講習会

期 間：8月5日(土) 午前10時 受付
~7日(月) 午後 2時頃 解散

会 場：笠岡大教会

受講御供：2,500円

参加資格：中学生・高校生・大学生・一般

携行品：英和・和英辞典、筆記具、着替え、洗面具、水着

婦人会委員部長後継者講習会

日 時 立教163年 8月21日(月) 午後4時 受付
22日(火) 午後2時半頃 閉講

場 所 笠岡大教会

参加御供 1,000円

内 容 支部長挨拶、大教会長様お話、草取りひのきしん、にをいがけ等
持 参 品 ハッピー、ひのきしんの出来る服装

※止むを得ず欠席される方、また、託児の必要な方は、年令・氏名を8月15日までにご連絡ください。